

# ドル/円相場のトレード戦略

## ■ 中長期展望

年初からドル安・円高が続いてきたドル/円相場は、6月のEU離脱を決めた英国国民投票以降、何度か100円割れを見たものの、底抜けを回避してきました。

これは、年初からのドル下落幅が20円を超える大幅なものとなっているなか、根強い米国の利上げ観測と日銀による追加緩和期待が背景にあるものと思われます。

この状況は当面変化がなく、年内は100円～107円のレンジでの方向感のない動きが継続する可能性が高いでしょう。

### 【ドル/円 週足】



しかし、来年を考えるとドルが下抜けするリスク徐々に高まっているように思われます。

米国の継続的な利上げは困難となりつつあり、日銀の追加緩和策も手詰まり感が露呈してきています。

また、米国の大統領選でクリントン候補が優位となっているものの、まだトランプ候補が大統領となる可能性は残っており、トランプ大統領誕生の場合には、リスク回避通貨として円が買い進まれる可能性も否定できません。

相場の流れを見ても、一旦始まった円高や円安の波が1年程度で収束する例はほとんどなく、来年も今年の流れを引き継ぐ可能性が高いと考えられます。

ドル/円が下抜けしまった場合の目安としては、2011年の安値から2015年の高値の61.8%戻しである95円水準が考えられますが、90円程度までオーバーシュートしてしまうリスクも警戒しておく必要があるかもしれません。

# ドル/円相場のトレード戦略

---

## ■ 短期展望

先週は、前週の流れを引き継ぎドルが堅調な推移となったものの、勢いは弱まりました。週初に高値 104 円 37 銭をつけたものの、その後、一部の報道を受けて日銀による追加緩和への期待が後退すると、週間安値 103 円 17 銭 まで下落する局面もありました。

ドルは底堅いものの 104 円台では売り意欲も強く、1 週間の値幅は 1 円 20 銭にとどまっており盛り上がり欠ける相場となりました。

今週も、先週同様の相場が継続される可能性が高いように思われます。

米大統領選が終了するまでは大きなリスクはとりにくく、今週は市場を刺激するような材料も乏しいことからレンジ相場の継続が予想されます。上値では 104 円台に売り圧力が強いことから 102 円～105 円のレンジを想定し、回転の速い取引が有効となりそうです。